

三重縣公報 第四百四十六號

大正三年一月二十三日

金 曜 日

○ 告 示

● 三重縣告示第二十五號

員辨郡大泉村奴女里溜普通水利組合管理者左ノ通相定ム

大正三年一月二十三日

三 重 縣 知 事 俵 孫 一

管理者 員辨郡大泉村長 出 口 久 明

● 三重縣告示第二十六號

東京大正博覽會三重縣事務所ハ大正三年二月二十日ヨリ東京市淺草區北松山町八番地行安寺内ニ之ヲ開始ス

大正三年一月二十三日

三 重 縣 知 事 俵 孫 一

● 三重縣告示第二十七號

三重郡ニ於ケル度量衡器第一種取締左記ノ通執行ス

大正三年一月二十三日

三 重 縣 知 事 俵 孫 一

度量衡器ヲ提出スヘキ日時場所及區域

[illegible]

同	同	同	同	同	同
十六日	十七日	十八日	十六日	十七日	十八日
午前九時ヨリ	午前十時ヨリ	午前九時ヨリ	午前九時ヨリ	午前十時ヨリ	午前九時ヨリ
大矢知村役場	川越村役場	大矢知村役場	大矢知村役場	川越村役場	大矢知村役場
大矢知村	川越村	大矢知村	大矢知村	川越村	大矢知村
上	上	上	上	上	上

●三重縣告示第二十八號

區劃漁業ヲ免許シ免許漁業原簿ニ登録シタルモノ左ノ如シ

大正三年一月二十三日

三重縣知事 俵 孫一

免許番號	免許年月日	漁業權者ノ氏名及住所	漁場ノ位置	漁業ノ種類及名稱	漁業時期	漁業權存續期間	條件
九二四	大正三年一月二十日	河藝郡栗村大字小川百三番屋敷西口藤名代表者河藝郡栗村大字小川百十一番屋敷	河藝郡栗村大字小川横川	第二種漁業魚類養鯉、鰻殖業	自一月一日至十二月三十一日	二十箇年	國、縣、市、町、村並他公共ノ關係ニ於テ施設スル事業ノ爲メハ公益上必要ハ免許ヲ取消シ又ハ制限ヲ附スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ損害ヲ生スルコトアルモ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

●三重縣告示第二十九號

木田山邊聯合耕地整理組合(河藝郡河曲村)規約中變更ノ件大正三年一月十九日認可セリ

大正三年一月二十三日

三重縣知事 儀孫一

○通報

●農第三五六號ノ一

大正三年一月二十三日

内務部長

各郡市長殿

來ル三月二十日ヨリ五月十日迄大阪博物館ニ於
テ日本産業協會主催第六回日本産業博覽會開催
可致趣ヲ以テ出品勸誘方依頼越候就テハ規則書
及送付候條精々出品可致様御勸誘ノ上申込書等
ハ直接同會ヘ送付セシメラレ度
右照會ス

○彙報

●町村長助役認可

大正二年十二月二十六日

一志郡倭村助役

岩脇伴藏

一月十六日

阿山郡城南村長

山岡 仁左衛門

一月十九日

志摩郡波切村助役

松井 藤太郎

一月二十日

名賀郡國津村助役

森川 多二

桑名郡木曾岬村助役

森 光朝

鈴鹿郡川崎村助役

宮崎 末松

一月二十一日

飯南郡大河内村長

吉田 房之助

桑名郡長島村助役

佐藤 彦太郎

●北海道及東北地方水害竝ニ作地輸出入貨物ノ
輸送ニ關シ左記私設鐵道ハ運賃五割引ニテ直通
輸送(連帶運輸取扱區域以外ノモノハ一時限リ
連帶)ノ取扱ヲ爲スコトニ鐵道院ニ於テ公示ノ
旨其筋ヨリ通牒アリタリ

記

養老鐵道株式會社

大正二年十一月二十五

日ヨリ

○公告

●收用土地細目追加竝取消公告

大正元年九月二日内閣ニ於テ認定セラレタル伊
勢鐵道株式會社ノ起業ニ係ル輕便鐵道敷設ノ爲
收用スヘキ土地ノ細目ニ左ノ一筆ヲ追加シ竝大
正二年六月十日付ヲ以テ公告シタル土地ノ細目
中左ノ一筆ヲ取消ス

大正三年一月二十三日

三重縣知事 俵 孫一

一追加シタル土地細目

河藝郡一身田町大字中野字宮ノ後五百七十八

番ノ四田

一取消シタル土地細目

河藝郡一身田町大字中野字宮ノ後五百七十九

番田

●農ニ本縣實業視察員ヲ囑託シ香川、愛媛ノ兩
縣ニ於ケル勸業、教育、衛生、自治ニ關スル事
項ノ調査ヲ命シタル視察員吉岡健三郎ヨリ提出
セル復命書別冊ノ通

吉野鐵道株式會社 同十二月十日ヨリ
播州鐵道株式會社 同十二月十一日ヨリ
富士身延鐵道株式會社 同十二月十日ヨリ
愛知電氣鐵道株式會社 同十二月五日ヨリ
松阪輕便鐵道株式會社 同十二月十五日ヨリ
尾西鐵道株式會社 同
西尾鐵道株式會社 同十一月二十五日ヨリ
博多灣鐵道株式會社 同
成田鐵道株式會社 同十二月十一日ヨリ
東武鐵道株式會社 同十一月二十五日ヨリ

●新潟縣及富山縣下ニ於ケル染織業ヲ視察シタ
ル大塚本縣工業試驗場長ノ復命書別冊ノ通

○廣告

●生徒募集 本年四月入學セシムヘキ本校豫科生徒凡五拾名本科航海科第一學年生徒凡拾名全機關科第一學年生徒凡拾名募集ス入學志願者ハ左記事項承知ノ上四月拾日迄ニ本校到着ノ日取ヲ以テ入學願書ヲ差出シ全日午前第九時出校スヘシ

大正三年一月二十三日

三重縣立鳥羽商船學校

入學志願者心得

- 一、入學志願者ハ左記ノ各號ニ該當スルモノタルコトヲ要ス
- 二、品行方正身体健全ナルコト
- 三、豫科入學志願者ハ本年四月始ニ於テ年齡滿十三年以上ニシテ高等小學校第一學年又ハ中學校第一學年ノ課程ヲ修了シタル者若クハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者但高等小學校第一學年又ハ中學校第一學年ノ課程ヲ修了シタル者ヲ對シテハ入學試験

ヲ行ハサルモ其ノ他ノ者ニ對シテハ高等小學校第一學年修了程度ニ依ル國語、算術、地理、歴史、理科ノ各學科目ニ就キ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

三、本科第一學年入學志願者ハ本年四月始ニ於テ年齡滿十四年以上ニシテ修業年限二ケ年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ中學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者若クハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者但修業年限二ケ年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ中學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ英語ニ就キ其ノ他ノ者ハ本校豫科ノ各學科目ニ就キ試験シ其學力ヲ檢定スヘシ

一、入學志願者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ選拔試験ヲ行フヘシ

前記ノ場合豫科ニアリテハ國語、算術ノ二科目本科ニアリテハ英語ニ就キ試験シ其成績ニ依リ入學者ヲ選定スヘシ

一、入學志願者ハ左式ノ入學願書ニ履歷書及在學學校長ノ卒業又ハ修了證明書(本年三月末

ニ於テ卒業又ハ修了ノ見込アル者ハ其ノ證明書)ヲ添ヘ差出スヘシ

入學願

(用紙美濃野紙)

私儀御校豫科(航海科)第一學年(入學志願ニ付御許可被成下度履歷書(何何學校長證明書)相添ヘ父(母兄後見人又ハ戶主)連署ヲ以テ相願候也

原籍 道廳府縣郡區市町村番屋敷(地戶)
現住所 道廳府縣郡區市町村番屋敷(地戶)
華、士族、平民、戶主又ハ何某何男兄弟等
年月日 本人 氏 名 生年月日

原籍 道廳府縣郡區市町村番屋敷(地戶)
現住所 道廳府縣郡區市町村番屋敷(地戶)
華、士族、平民、職業
右父(母、後見人、又ハ戶主)
氏 名 生年月日

三重縣立鳥羽商船學校校長正戸爲太郎殿
(備考、父、母、後見人ナキトキ及自身戶主ナルトキハ連署ニ及ハス)

履歷書 (用紙同前)

原籍 道廳府縣郡區市町村番屋敷(地戶)
生地 同上又ハ何々
現住所 同上又ハ何某方寄留

戶主職業(成ルヘク詳細ニ記スヘシ他人ノ家ニ寄留スルトキハ其ノ戶主ノ職業ヲモ記載スヘシ)

一、何年何月ヨリ何地何學校ニ於テ何々修業若クハ卒業

一、何年何月ヨリ何年何月マテ何々ノ職ニ就ク

一、何年何月何處ニ於テ何々ノ職ニ就キ賞若クハ罰ヲ受ク等
右之通ニ候也

年月日

氏

名

一、入學志願者ハ試験當日洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

一、入學志願者ハ受驗用具(鉛筆、小刀、筆、墨、ペン、インキ)ヲ携帯出校スヘシ

大正三年一月二十三日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣廳

三重縣津市北町拾貳番屋敷
印刷兼販賣所 遵法社 松田武兵衛

三重縣公報第四百四十六號附錄 大正三年一月二十三日

染織業視察復命書

工業試驗場長

大塚久次郎

新 潟 縣

工業ニ關スル施設

工業教育 長岡市ニ縣立工業學校ヲ設立シテ甲種工業學校ノ程度ニ依リ染織、機械、應用化學、土木ノ四科ヲ授ク其他郡立トシテハ三條町ニ南蒲原郡三條商工學校、古志郡ニ古志郡朽尾實業學校、中魚沼郡ニ十日町實業學校等アリ共ニ實業教育ノ普及ニ從事セルノミナラス町村立又ハ組合立實業補習學校中工業ニ關スルモノ三アリ

物産陳列館 明治三十五年ノ創立ニシテ縣下產業ノ改良發達ヲ計ラシカ爲其參考トナルヘキ内外國產出ノ物產及產業ニ關スル圖書ヲ蒐集陳列シテ公衆ノ縱覽ニ供シ汎ク委託販賣品即賣ノ途ヲ開キ又縣内當業者ノ依頼ニ應シ產業上必要ナル圖案ヲ調製シ一面ニハ參考品巡回陳列ノ方法ニ依リテ同館ノ効果ヲ一層大ナラシメ兼テ產業上ニ關スル調査ノ依頼ニ應シ又通商ノ紹介ヲ爲シ或ハ產業ニ關スル集會ニ本館内ヲ利用セシムル等直接間接ニ斯業ノ發達ヲ圖リツ、アリ而シテ陳列場ノ面積ハ一千六百十二坪ニシテ大正元年末ニ於ケル參考品ノ數一萬四百五十三點、委託販賣品四萬六百四十九點、同販賣高壹萬四千四百八拾四圓ナリ

尙同年ニ於ケル開館日數ハ三百六十日ニシテ縱覽人十四萬六千五百五十二人ニ達セリ
同館ニ於テ特ニ注目スヘキ事業ハ縣内工業上參考トナルヘキ各種特許品ヲ陳列シテ當業者ノ參考ニ供スルコト及各種工產品ノ製作順序等ヲ展示シテ觀覽者ノ參考ニ資セシムルコト等ナリ尙不用物品ヲ賣却シタルトキハ特別會計ト爲シ之ヲ以テ新參考品ヲ購入スルノ方法ヲトレリ
重要工產物及鑛產物 左ノ如シ(最近一ヶ年產額)

織 物
染 物

九、八五六、五四八
二、〇七一、〇六三

酒 醬 油 原 油 製 油 金 屬 器

五三四七、一三二
一、〇五三、七八八
六、九七二、四〇四
一、四九八、一八〇
二、六六八、〇二八

新潟縣ノ染織業

斯業ニ關スル縣ノ施設 本縣ニテハ夙ニ専門技師ヲ常置シ巡回指導ノ任ニ當ラシメシカ事業ノ擴張ニ伴ヒ前年度ヨリ更ニ技手一名ヲ増員セリ而シテ明治三十四年以來染織業ニ關スル同業組合ノ内ニ講習所ヲ附設セシムルノ方針ヲ以テ之ニ對シ年々相當ノ補助金ヲ交附シ尙四十一年織物機械補助規程ヲ制定シ力織機、足踏織機、整經機、撚糸機等ノ設備ヲ獎勵スル所アリシカ本年度ヨリ斯業ノ趨勢ニ鑑ミ從來ノ諸補助規程ヲ廢シ新タニ染織補助獎勵規程ヲ設ケ染織機械ノ改良購入、實驗ノ囑託、共同事業ノ經營、輸物ノ獎勵等各般ニ亘リ其進步發達ニ資スヘキモノヲ撰擇シテ補助スルコト、ナレリ

内地向織物 古來縣下各地ニ其產出アリシト雖トモ概ネ家内の工業ニシテ賃織業ノ如キ觀アリシカ近時機械應用ノ進步ニ伴ヒ漸次工場組織ニ變更セントスルノ趨勢ヲ呈セリ其製品ハ多種ニ互リ盡ク之ヲ列舉スルコト難シト雖トモ其主ナルモノヲ舉クレハ五泉平、山邊里平、朽尾節織、越後上布、透綾、絹綿交織、絹、羽二重、染紉、中形及木綿縞等ニシテ主ナル產物ニハ同業組合ヲ組織シ之ニ染織講習所ヲ附設シ以テ製品ノ改良ヲ計リ時勢ノ嗜好ニ後レサランコトヲ期セリ殊ニ朽尾節織ニ力織機ヲ應用セル見附新節織力意匠ノ進步セル内地羽二重及絹ノ製織法ヲ改良セル如キ何レモ能ク世評ヲ博シ其產額ヲ増加セリ

輸出織物 同縣ニテハ明治三十七八年内地向織物不振ノ際之カ救済方法トシテ輸出羽二重ノ製織ヲ獎勵シ且ツ検査ヲ實施セシカ其後再び内地織物ノ盛況ニ加フルニ輸出事業ノ面白カラリシヨリ現今ニテハ僅ニ其跡ヲ止ムルニ過キサレトモ一旦需要増加ノ機運ニ際會セハ從來ノ經驗上必ス回復振興スルヲ得ヘシ其他輸出品トシテ「バテンレース」工業ノ婦女子ノ仕事トシテ各地ニ勃興スルニ從ヒ其原料タル「ブレード」製織ノ業及「マニラ」麻紐組製ノ業亦將ニ盛ンナラムトシ其他中魚沼郡、古志郡地方ニ於テ壁羽二重、岩船郡ニ於ケル洋服裏地等漸々市場ノ聲價ヲ博シ來レリ

縣下染織物主要產地及產額等左表ノ如シ
染織物主要產地

拾五萬圓以上ヲ產出スル主產地左ノ如シ ○印ヲ附セル地方ニハ同業組合ノ設ケアリ

主 要 產 地	主 要 製 品	產 額
中蒲原郡 五 泉 町 ○	絹 織 物	百六拾萬圓
同 龜 田 町 ○	絹 及 綿 織 物	七拾萬圓
同 白 根 町 ○	染紉其他染物	四拾貳萬圓
同 小 須 戸 町 ○	縞木綿夜具縞等物	參拾萬圓
中魚沼郡 十日町地方 ○	絹 織 物	百參拾萬圓
古志郡 朽 尾 町 ○	同	百六拾五萬圓
長 岡 市 ○	絹 及 綿 織 物	參拾五萬圓
南蒲原郡 三 條 町 ○	染紉中形其他染生地	百貳拾萬圓
同 見 附 町 ○	絹及綿織物同交織	百貳拾參萬圓

同	加茂町	○	絹及綿織物	百貳拾萬圓
西蒲原郡	吉田地方	○	白木綿	拾五萬圓
高	田市	○	木綿及ブレード等	參拾萬圓
刈羽郡	柏崎町	○	絹	拾五萬圓
新	潟市	○	木綿及ブレード等	拾五萬圓
南魚沼郡	鹽澤町及附近		越後上布絹上布	貳拾貳萬圓
北魚沼郡	小千谷町附近		同	參拾萬圓

染織物種類產額表 (明治四十四年)

絹織物	絹綿交織物	綿織物	麻其他織物	合計
織物 六、六六五、三八九	八四四、〇四二、〇二六、九六九	二三八、六四七、八五六、五四八		
染	裏	中	更	紗
八、〇、二〇三	四九六、六二〇	七四八、一一一	一六、一二九二、〇七一、〇六三	計

總計 壹千九百九拾貳萬七千六百拾壹圓

各產地ノ染織物 實地視察ヲナセル地方ノ内重ナルモノ二三ヲ記スレハ左ノ如シ

新潟市ノ織物

新益社ブレード織工場 同社ハ新潟市赤坂町ニ在リ製品ハ「バタンレース」ノ原料タル「ブレード」ナリ

設備ハ工場組織ニシテ安東式力織機百十臺、精練釜一個、糸ノ毛羽伏機械二臺其他晒桶、洗桶數個力織機ハ一人ニテ二臺ヲ受持チ一臺ノ織機ニテ同時ニ十九本ノ「ブレード」ヲ製織ス

製品ハ之ヲ加工セシメ海外ニ輸出ス

新潟縣特産ノ天然瓦斯ハ本社構内ニ於テモ堀井ヨリ噴出シ之ヲ乾燥室内ニ導キテ給温ニ應用セ

一、中蒲原郡小須戸地方ノ織物 製品種類 同地方ノ織物ハ主トシテ綿織物即綿木綿夜具縞、納戸木綿等ニシテ價格ハ一反七拾錢乃至壹圓

販路 北海道及東北地方トス

原料 攝津紡績及三重紡績會社ノ綿糸ヲ用フ

工業狀態 内機及出機ノ兩種アリ糸ハ主トシテ二十手ノ綿糸ヲ經緯ニ用ヒ箴ハ九算乃至十二算トス

機械器具 黒柳式踏織機及山下式力織機ニシテ両機共一日二反半乃至三反ヲ織上ク

一、竹石織工場 小須戸町ニ在リ

製品 縞木綿 每反價格九拾貳參錢

販路 東北地方

原料 大阪紡績及合同紡績綿糸

工業狀態 電力ニ依リ遠州山下式力織機十二臺ヲ運轉シ一臺一日平均二反半ヲ製織ス管卷機ハ

遠州杉浦式

職工 男工二人女工十人、箴ハ十二算ヲ用フ地糸ハ經緯共二十手筋糸ニハ六〇瓦斯糸ヲ使用ス
染色ハ地ノ紺色ハ硫化染料、綿ハ直接染料トス
尚出機ニテ夜具綿ヲ製織ス

一、石井織工場 小須戸町ニ在リ

製品ハ 中柄黃綿木綿 價格一反七拾錢内外

販路 北海道及東北地方

原料 大阪攝津紡績及三重紡績綿糸ヲ主トス

工業狀態 内機四十臺及出機約八十臺黑柳式踏織機ヲ用ヒ一臺一日約二反半ヲ製織ス

箴 九算ニシテ經緯二十手ノ綿糸ヲ用フ

一機二十反掛、工女約五十人 一日十二三時間就業トス

管卷機ハ杉浦式

染色 黃綿ニハ直接染料ヲ使用ス

一、南浦原郡三條町地方ノ染物

沿革 三條染物ノ起原ハ頗ル古クシテ古來田島ノ淺黃木綿ト稱スルモノ其濫觴トス其後文化ノ初年ニ至リ高橋茂右衛門ナルモノ染工治右衛門ト謀リ形付染ノ業ヲ起セリ次ニ天保年間同地ニ俵屋ナル紺屋アリ其弟子ニシテ忠勤ナル細井吉造ト云ヘル者ヲシテ關東及名古屋地方ヲ視察シ中形染ノ研究ヲナサシム吉造歸リテ後大ニ改善獎勵スル所アリタリ染色ハ主トシテ藍ヲ用ヒタリシカ爾來時勢ノ進運ニ從ヒ追々進歩發達シ中形ノ如キハ其意匠ノ嶄新ト染色ノ堅牢トニ力ヲ盡シ遂ニ今日ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ現今同地斯業ノ中最盛ナル特許染紺ハ嘗テ當地ノ渡邊

はるカ京都ノ藤瀬兵三郎ヨリ權利ヲ讓受ケタルモノニシテ初メ專ラ鹽化「アニリン」ノ引染黑紺即冬物ノミ製染セシカ爾來研究怠リナク三十九年八月漸ク硫化染料ノ防染浸染法ヲ應用シテ硫化紺染ヲ染出スルニ至レリ之ト共ニ地方當業者ハ北浦原郡五十公野村山口龜太郎ヨリ特許臘月紺ノ分權ヲ得テ之亦隆盛トナレリ

四十年一月渡邊はるニヨリ交叉点白抜紺製法及四十一年四月特許第一三〇〇一號等考案セラレ之等數種ノ應用ニ依リ夏物紺紺、納戸紺冬向ノ黑紺茶紺等非常ナル勢力ヲ以テ起リ殆ト織紺ヲ壓倒セレストスルニ至レリ

四十二年菱織ノ代リニ紺緯即半染紺ヲ緯糸ニ用ヒタル織布生地ヲ染紺ニ應用シ新規ノ柄合ヲ作ルニ注意セシカハ產額益増加セリ此ノ如ク三條染物ノ進歩ハ共同一致ノ必要ヲ感セシメ四十二年四月北越染物同業組合ヲ組織シ十一月染色講習所ヲ設ケ毎年一二月染色講習會ヲ開キ共ニ生地及染色改良ノ研究ニ貢獻セシコト少ナカラス

種類及特色 中形ニハ本染、摺込、寫中形ノ各種アリテ優美堅牢ノモノナレハ夏物トシテ實用ニ適ス染紺ニハ紺紺、納戸紺、黑紺、茶紺等アリ何レモ染色堅牢ニシテ實用的ノモノナリ中形ハ初メ正藍染ナリシヲ以テ當時實用的トシテ名ヲ博セリ然レトモ時勢ノ變遷ニ依リ在來ノ染法ニ一步ヲ進メ現今染色界ニ於テ尤モ堅牢無比ナリトノ評アル建築々料ヲ本位トシタレハ彼ノ群青引付純藍染色ニ比シ全ク其觀ヲ異ニスルノミナラス染色堅牢ニシテ實用ニ適シ且柄合ノ進歩ヲ圖リツ、アリ

臘月紺モ亦縞生地縞縞生地等ニ奇抜ナル柄合ヲ適用シ大ニ世ノ嗜好ニ投セリ殊ニ近來縞縞ニ白抜染ヲ應用スルノミナラス目下簡單ナル機械ヲ應用シテ染紺中形ノ改善進歩ニ盡シツ、アリ
產額 大正元年ノ產額ハ八拾四萬壹千六百九拾五圓

販路 初メ縣下及山形秋田等ノ各縣ノミナリシカ明治二十七八年頃ヨリ大ニ販路ヲ擴張シ現今右ノ外京阪、關西、北海道等殆ト全國染絨ノ至ラサル地方ナク殊ニ關西地方ハ巾形ノ注文多シ

一、渡邊染工場 三條町ニ在リ

製品 捺染絨及巾形 一反九拾錢乃至壹圓拾錢

原料木綿 尾張及伊勢地方ヨリ入ル

販路 京阪及東京地方

工業狀態 糊形付ハ主トシテ工場外ニテ賃付ヲナサシメ染色ハ同工場内ニテ硫化染ヲ行フ即各種ノ特許染法ヲ應用ス

器具 染浴トシテ亞鉛版製角釜縦二尺五寸、横二尺、深二尺五寸ノモノヲ用フ

盛時ニハ一日七八百反ヲ染上ク

一、染物問屋 武田商店 三條町ニ在リ

原料木綿ヲ各地ヨリ仕入レ之ニ染色加工ヲナサシメ再ヒ各地方ニ販賣ス

今同店其他ニテ調査セル生地代加工費及賣價等左ノ如シ

種 類	生地代價	水振	染代	仕上賃	文庫ペーパ	合計(原價)	卸代價
夏紺絨	五二	一、二	二六	二、五	四	八五、七	九〇
茶 絨	五六	一、二	二六	二、五	四	八九、七	九五

浸ミ染絨 六〇 一、二 三三 二、五 四 一〇〇、七 一一〇

朧月絨 九一 一、二 一四 二、五 四 一二二、七 一三〇

木綿裏地 五〇 五、五 一、〇 一、五 一、五 五八 六二

金巾裏地 五二 八、五 一、五 一、五 一、五 六三、五 六九

染代ノ内形糊置賃ハ一反ニ付四錢乃至八錢ニシテ一日一人ニテ十四五反ノ糊置ヲナス裏地染法ハ直接染料或ハ硫化染料ノ染色ニ藍ノ上掛ヲナスモノ多シ

簡單ナル形付機械

三條地方ニ用フル簡單ナル形付機械ノ略圖ハ次ノ如ク

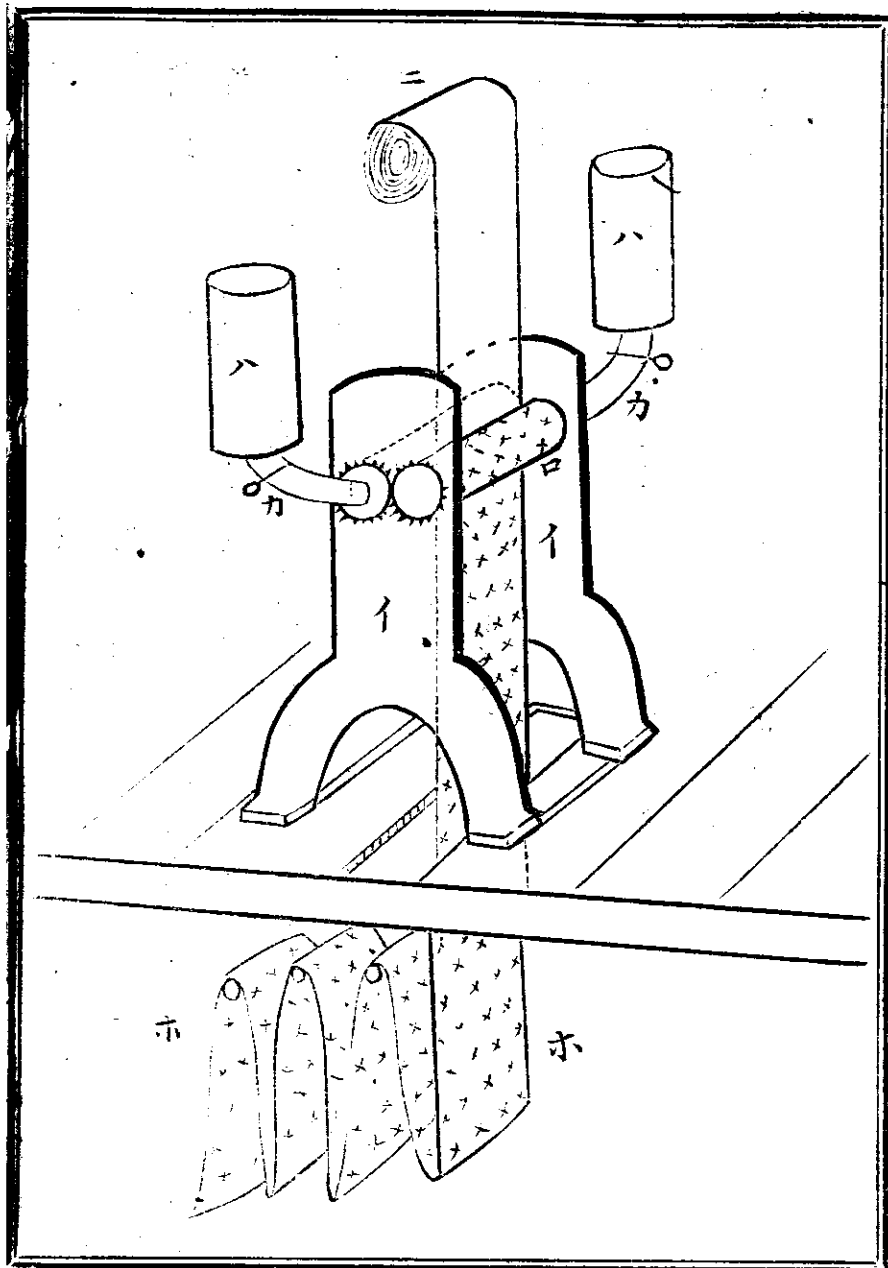
(イ)ハ其機ノ支柱

(ロ)ハ眞鍮製ノ中空ノ形「ロール」

(ハ)ハ染糊入器ニシテ(カ)ノ管ニ依リテ(ロ)ノ「ロール」ニ染糊ヲ送ル

今(ロ)ノ形ロールヲ人力ニ依リテ回轉シ(ニ)ノ木綿ヲシテ二本ノ「ロール」ノ間ヲ通過セシム

レハ形糊綿布ニ附着ス之ヲ(ホ)ノ如ク棒ニ掛ケテ干燥ス



一、南蒲原郡見附町地方ノ織物

沿革 綿織物ハ古來僅ニ見附小倉ノミナリシカ文政年間宮島某山田某ナル者下總結城ニ赴キ其地ノ機業盛シニシテ且原料綿糸ノ需要多キヲ見テ大ニ感シ糸ノ見本及繰車ヲ携ヘ歸リテ之ヲ町内及附近ニ傳ヘテ紡糸ノ業ヲ起シ結城町或ハ越中地方ニ販賣シ相當ノ利益ヲ見タリ其後生産漸次ニ過剩トナリ糸價亦非常ニ下落セシカハ天保年中宮島某再ヒ結城ニ赴キ織工及染工タル男女五人ヲ雇聘シ歸リテ創織ス之レ結城木綿ノ嚆矢トス其後優良ナル製品ヲ出シ天保弘化ノ頃ニハ江戸越後屋ト特約取引ヲナスニ至レリ明治初年ニ及ヒ絹綿交織ヲ製出セリ

節織ハ明治七年澁谷庄吉、三木喜一郎等相謀リ米澤ヨリ教師ヲ聘シ來リテ生糸ヲ買入レ節糸織ヲ試織セシニ好成績ヲ得タリ然ルニ時恰モ經濟界ノ不況ニ際シ一盛一衰或ハ廢業シ或ハ粗製濫造トナリ殆ト救済ス可ラサルニ至レルヲ以テ同業者大ニ奮起スル所アリ明治二十六年節糸織組合ヲ組織シ製品ヲ統一シ証紙ヲ貼用シテ檢査ヲ勵行シ大ニ改良發達ヲ圖リシカハ茲ニ見附節織ノ名再ヒ世ニ現ハル、ニ至レリ之ト共ニ結城糸織、袴地、羽二重、新節織等ヲ製出スルニ至リ明治三十四年三月見附機業組合ト合併シテ見附織物組合ヲ組織シ尙四十年十月ニ至リ織物同業組合ヲ組織セルニ依リ益進歩發達ノ機運ニ向ヘリ

種類及特色 新節織ハ當地ノ主產品ニシテ綿糸ト柞蠶糸トノ交織ヨリ成リ一見節織ト異ルコトナシ蓋シ當地ノ機業家ハ柞蠶糸ノ使用ニ熟練シ居ルヲ以テ各種ノ交織物ニ之ヲ應用シ居ル有様ナリ從テ其意匠ノ如キモ能ク流行ニ後レス價格ハ割合低廉ニ世ニ供給スルヲ以テ不況ノ難ヲ蒙ルコト稀ナリ

綿織ニハ正紺、硫化紺等ヲ以テ使用シ居ルニ依リ地回リシテ勢力アリ尙當地方ノ製造家ハ研究心ニ富メルヲ以テ益々良品ノ増加ヲ見ルニ至ラン

產額 一ヶ年拾萬圓以上ノ產額アルモノハ新節織、木綿織、羽二重等ニシテ之ニ次クモノハ
絹、太物、袴地、交織物其他トナス而シテ一ヶ年ノ產額合計百貳拾七萬八千六百貳拾四圓ニ達ス
販路 絹織物ハ大阪ヲ第一トシ東京京都之ニ次キ其他各地共多少販賣セサルナク綿織物ハ重
ニ北海道及奥羽地方ニ販出ス而シテ毎月一六ノ日ニ於テ市ヲ開ケリ

工業狀態 製品瓦斯糸織類ニ付キ記センニ
每反價格貳圓乃ニ貳圓參拾錢

出機組織ノモノ多ク一日一臺ニテ一反乃至一反半製織ス織機手織機歲十八算ノモノ多シ
經糸八十番瓦斯糸又ハ「シルケット」

緯糸三十手又ハ四十手單糸

染色ハ硫化染料又ハ直接染料染

以上ノ糸使ニテ同時佐野織工場ニ於ケル御價格左ノ如シ

瓦斯糸織 一反 二〇五錢

同格子縞 同 二一七

同夜具縞 一疋 三四〇

一、越後綿布株式會社 見附町ニ在リ

製品 瓦斯結城 一反 壹圓拾錢乃至壹圓參拾錢

原料 日本紡績 八十番瓦斯糸及「シルケット」

工場組織ニシテ池谷式力織機四十四臺据付

一人二臺受持、一日一臺ノ製織高二反半乃至三反

原動機ハ石油發動機

(右各種織物參考品ハ三重縣勸業陳列館ニ陳列セリ)

富 山 縣

工業ニ關スル施設

工業會 明治二十九年ニ創設セル私立團體ニシテ本部ノ外ニ縣下二市八部ニ支部ヲ置キ染色
及圖按ノ技術者ヲシテ染色、銅器、木竹製品、漆器等ノ改良指導ノ任ニ當ラシム染色ニ就テハ
巡回講習ヲナシ實地教授ノ實ヲ舉ク縣ヨリ同會ニ對シ年々補助ヲナシ以テ其事業ヲ獎勵ス
工藝學校及工業試驗場 共ニ高岡市ニ在リ工藝學校ハ明治二十七年ノ創立ニシテ工業試驗場
ハ大正二年ノ設立ナリ何レモ金屬器、漆器、木工、圖案ノ教育及獎勵指導ニ任シツ、アリ
一、富山縣ノ染織業

斯業ニ關スル縣ノ施設 明治四十二年以來縣ニ工業技師ヲ置キ染織業ノ獎勵ヲ擔任セシメ其
發達進歩ヲ計リツ、リ

絹織物 輸出羽二重、絹「モスリン」、内地羽二重、平絹井波紬、紋織物

綿織物 福野縞、戸出縞、越中縞、岩瀬染、白木綿

染物 新モス友禪

產額 染織物四十四年ノ產額左ノ如シ

織物、參百七拾八萬九百八拾圓

新モス友禪、七拾四萬九千七百圓

染織ニ關スル同業組合、左ノ如シ

組合名

事務所位置

富山縣輸出織物同業組合

富山 市

下新川郡綿織物同業組合

下新川郡魚津町

福野織物同業組合

東礪波郡福野町

富山染織同業組合

富山 市

高岡捺染同業組合

高岡 市

重ナル染織物 主トシテ調査セルモノ左ノ如シ

一、富山市ノ絹「モスリン」

沿革 絹「モスリン」(一名シフコン)ハ富山市ニ在ル株式會社富山縣絹織物模範工場ノ製品ナリ同工場ハ明治三十五年ノ創立ニシテ農商務省ヨリ機械ノ貸付ヲ受ケ三十七年絹モスリン製糸ニ着手ス爾後本品ノミヲ製織ス四十一年十二月迄ハ資本金參萬圓ノ合資組織ナリシカ後株式組織ニ變更シ資本金ヲ四萬五千圓ニ増額シ更ニ拾五萬圓ニ増資ス

製品種類ハ無地、縞、格子、金線入等ノ絹「モスリン」ナリ

製織狀況 鯨一寸間百三十二羽ノ簇ヲ用ヒ強キ燃アル地糸ヲ經トシ練糸ヲ縞トシ強キ燃アル生糸ヲ緯トス立縞物及無地物ニハ力織機ヲ用ヒ格子縞ニハ手織機ヲ使用ス

販路 製品ハ横濱商人ノ手ヲ經テ印度地方ニ輸出ス

改良方法 手織機ニ新式ノ巻取器ヲ應用シ整理ニ巾出乾燥機ヲ使用ス

一、内地羽二重

沿革 内地羽二重ノ產地ハ東礪波郡及中新川郡等ニシテ其起原ハ明治三十九年ナリ生産狀況 工場組織及農閑ノ副業ニシテ種類ハ一疋百五十匁内外ト一疋二三三百匁トノ二種ア

リ前者ヲ輕目物ト云ヒ後者ヲ重目物ト稱ス

簇ハ鯨一寸ニ付百羽ノモノヲ用ヒ十五六「デニール」ノ生糸ヲ四ツ入或ハ八ツ入トシ緯ハ十五六「デニール」ノ生糸ヲ五本乃至十二本引揃用フ經ノ糊ハ茶碗糊或ハ坪糊トス

販路 生地ノ儘京都ニ販賣ス

改良方法 共同干燥ヲナシ重量ヲ布端ニ記入シテ取引ヲナシ以テ其信用ヲ保持ス

一、輸出羽二重

沿革 明治二十二年東礪波郡井波町ニ起リシヲ以テ嚆矢トス其後各地ヨリ產出スルニ至レリ三十九年一月ヨリ縣立輸出羽二重検査所ヲ富山市ニ設ケ縣下ノ製品ヲ検査ス

工業狀況 工業組織ハ工場組織ニテ經營スルモノ漸々増加ス製品ノ種類ハ尺三、尺五、尺八、二四巾ノ四種ナレトモ尺八物十分ノ八以上ヲ占ム目付ハ三匁ヨリ五分増ニテ十匁付ニ至ル各種アレトモ四半付乃至五半付ノモノ多シ

織機ハ元來手織機ヲ用ヒ來リシカ近來力織機ヲ用フルモノ増加シ其内齋外式最モ多ク津田式之ニ次ク一ヶ月一臺ノ織上高尺八五十「ヤール」物ニテ八疋手織機ナレハ其半額トス、簇ノ密度ハ一寸百羽乃至百五羽ニシテ尺八物五匁付ナレハ十六中ヲ經トシ十二乃至十四「デニール」二本ヲ緯トス緯ノ打込數ハ一寸間百七十本内外ナリ力織機ハ漸々其數ヲ増加シ現今八百餘臺アリ

販路 以前米國向ナリシカ近來歐洲向ノモノ多シ

改善方法 力織機ノ應用ニヨリ製品ヲ均一ナラシメ尙精練ノ統一及嚴正ナル検査ニ依リテ製品ヲ改良ス

一、高岡市ノ染物(新モス友禪)

沿革 新モス友禪ハ高岡市ノ物產ナリ高岡ノ捺染ハ天保年間ニ起リ慶應ノ初メをちこち染ト

稱スル粗ナル木綿友禪ヲ出シ明治十五年ヨリ十七年ノ頃野文治金巾捺染ヲ製造シ同三十七年小巾友禪ヲ産シ三十八年常木清太郎ナルモノ大巾友禪ヲ製出ス四十年九月高岡染業株式會社ハ捺染干燥機ニ付實用新案權ヲ得四十一年十五名ノ共有權トナシ同時ニ高岡染業組合ヲ組織セリ近來輸出向友禪ヲ製造ス

工業狀況 新案ノ捺染干燥器ヲ用ヒ特製ナル亞鉛板ヲ形紙ニ使用シ女工カ捺染ヲ行ヒ殆ト毛「モスリン」ノ如キ製品ヲ出スニ至リ近來農商務省實驗囑託試驗ノ結果形板其他ヲ改良セリ捺染業者十數名年産額七拾四萬九千餘圓ニ達ス

販路 三十七年頃ニ小巾友禪ヲ産出シ東京、大阪、越前地方ニ販路ヲ開キタリシカ現今ニ於テハ重ニ大阪及海外ニ販賣ス

改良方法 媒染方法、蒸シ法及形版等ヲ改良シ染色堅牢度ヲ増スニ至レリ

新モス友禪工場ノ實地視察セルモノ一二ヲ記スレハ左ノ如シ

一、高岡友禪台名會社 高岡市榮町ニ在リ

製品、新モス友禪、大巾一反壹圓四拾五錢

原料、大阪製金巾一反壹圓五錢

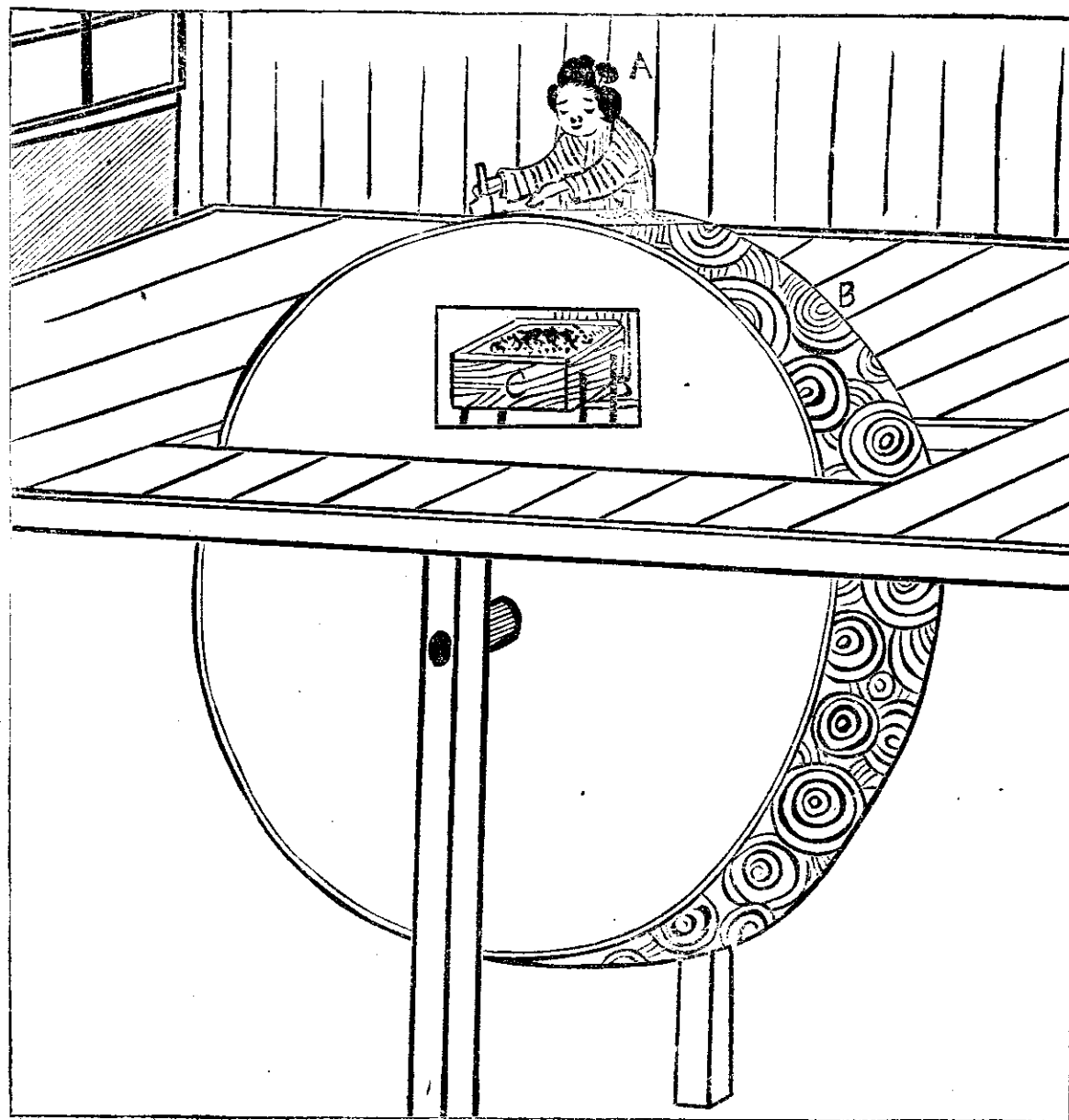
同社ハ工場組織ニシテ新式ノ太鼓形捺染機四十臺ヲ備ヒ一日一臺ニテ約八反ヲ染上ク形板ハ薄キ亞鉛板ニ形紙ヲ貼付シ之ヲ薄キ酸液ニ浸シ腐蝕セツメテ作レルモノヲ用フ生地ハ「タンニン」劑ニテ下漬ヲナシ之ニ堽基性染料ニテ摺込捺染ヲ行フ每反使用ノ色數ハ六色乃至十色（普通八色）ナリ

太鼓形捺染機ハ其略圖左ノ如ク直徑曲尺ニテ約二間其周圍ニ鐵板ヲ張り内部ニハ炭火（火鉢）ヲ入レ置キ太鼓形ハ回轉スルモ火鉢ハ常ニ一定ノ位置ニ在ラシム今捺染スヘキ綿布（大巾一反）ヲ

高岡市ニテ用フル簡便ナル

太鼓形捺染機

圖中Aハ捺染工女、Bハ被捺染布、Cハ干燥用火鉢



太鼓ノ外周ニ張り工女ハ圖ノ如ク二階上ノ一定ノ位置ニ居リテ捺染機ヲ回轉シツ、捺染ヲナス
然ルトキハ炭火ニ依リテ自ラ干燥セラル

此機ニ据付場所ヲ廣ク要ス又工女ハ一ヶ所ニ在リテ仕事ヲナシ得ルカ故ニ最モ便利ナル裝置
ナリ

原 價 一反生地代壹圓五錢 染料藥品 拾參錢 加工費 八錢 仕上代等 四錢

計 壹圓參拾錢

卸賣價 一反壹圓四拾五錢

差引一反ニ付 拾五錢利益

一、高岡染業株式會社

製品 原料等前ニ同シ

設備ハ汽罐ヲ有シ平板捺染臺（地上二尺五寸程ノ位置ニ長キ鐵板ヲ横ヘ元其下部ニ炭火ヲ置キ
テ加熱セシカ現今蒸氣ヲ通シ加熱スルモノ）三十六臺ヲ備フ

一日一臺ニテ八反乃至十反ヲ捺染ス然レトモ此捺染臺ニテハ約二倍ノ職工ヲ要ス故ニ前
ヨリ
工費多シ

同社ニハ外ニ圓形巾出機械及農商務省ヨリ借受タル湯伸機械アリ

大正三年一月二十三日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣廳

三重縣津市北町拾貳番屋敷
印刷兼販賣所 遵法社 松田武兵衛

三重縣公報第四百十六號附錄 大正三年一月二十三日

實業視察復命書

視察員

吉岡健三郎

復 命 書

三重縣會議員 吉岡健三郎

- 一 視察員
一 視察事項 勸業、教育、衛生、自治
一 視察地方 愛媛縣、香川縣
勸業、教育、衛生、自治ヲ視察スヘキ命ヲ領シ愛媛香川兩縣ヲ巡察シタリ今茲ニ其概略ヲ復命セント欲ス素ヨリ限リアル日時ヲ以テ全般ヲ悉クス能ハスト雖モ大略ヲ盡シテ視察ノ責任ヲ全フセントス

愛媛縣ノ農業

地味ノ肥沃ト相待チテ天與ノ農産地ニ屬ス田四萬八千百町步餘畑七萬五百三十餘町ヲ有シ殊ニ溫帶地ナルカ故ニ著シク發達向上シツ、アリ就中米麥、甘藷、果樹、玉蜀黍、蘿蔔、芋、大豆、檳實、橘、三椏等ハ主ナル農産物トシテ實ニ參千萬圓以上ヲ算スヘク猶ホ將來ニ於テ十分ニ發展ノ望アルハ羨望ニ不堪也

米作ニ就テ一言センニ明治二十年ニハ僅カニ五十萬石ヲ出テサリシモ縣當局カ指導宜シキヲ得テ縣農會ハ各郡町村農會ト相呼應シ之レカ改良ニ盡瘁奮獎ヒシ結果九十三萬七千餘石平均產額八十萬石ノ收穫ヲ見ルニ至レリ一面ニ於テハ耕地整理ヲ勵行シ傍ラ其原種ノ撰擇ニ注意シ純良ヲ拔ク曰ク神力、相德、器量、雄町ノ四種ヲ以テシ原種田ヨリ採取セル初種ヲ一般當業者ニ無償交付ヲ爲スカ故ニ改良ニ就テ多大ナル貢獻アリシモノ、如シ

右ハ住友家ヨリ彼ノ別子鑛山煙毒ノ損害トシテ年額七萬餘圓ヲ徵收シ其他害虫驅除ニ對シ壹萬圓ヲ寄附ス而シテ前述七萬餘圓ヲ以テ十町步ノ原種田ヲ經營シ其他正條植ノ如キ着々實行シ成績モ頗ル佳良ナリト聞ケリ

麥作ニ就テハ米作ニ比シ頗ル劣等ナルカ如シコハ肥料及ヒ勞働賃金ノ騰貴カ重ナル原因ナリト雖モ麥作ノ利益ヲ損シタルハ事實ニシテ五萬千七百餘町歩ニ對シ五十七萬餘石ニ過キサルカ如シ然レトモ水山ノ耕地整理上乾田トナリタルモノ多キモ未タ以テ米作ニ遷ルコト多シト謂フ米麥ニ次クノ副產物トシテハ甘藷ヲ推サ、ルヘカラス品質良好ニシテ美味大阪市場ニ上リテ優秀ナリ作付反別ハ一萬四千餘町歩ニシテ收穫ハ實ニ四千萬貫ニ上リ之レヲ價格ニ計上スレハ百五十萬圓ニ達ス

果樹ニ於テハ柑橘ノ栽培地トシテ名アリ温州密柑、夏橙、梨、桃、柿等アリ之レカ栽培反別ハ二千餘町歩ト稱シ四拾五萬圓ノ收穫アリ將來ハ尙ホ發展スヘキ見込アリト聞ケリ

農業經營上忽諸ニ付セラレサルモノハ則チ耕地ノ整理ナリトス同縣ニ於テハ最近四十一ヶ所ヲ整理シ面積八百五十町歩ニ達シ補助交付額ハ參萬七千四百餘圓ヲ算ス

蠶業ハ頗ル氣候風土ニ適シ常ニ農家ノ副業トシテ重要ノ地位ヲ占ム一ヶ年ノ掃立數三萬七千餘收繭高三萬九千石價格ハ優ニ百四拾五萬圓ニ上ル霜害ノ如キ稀有ニシテ發育盛ナルカ故ニ四期共ニ桑葉ニ不足ヲ訴フルカ如キコト絶無ニシテ全ク天與ノ養蠶地トモ稱スヘク附隨セル製糸業ノ發達モ亦盛大ニシテ三十餘ノ工場二千餘ノ製糸家アリ一ヶ年ノ產額參百萬圓ニ上リ横濱市場ニ於テモ好評曠々タリト聞ク

愛媛ノ水産

同縣カ水ニ對スル位置ハ瀬戸内海ノ南岸百五十有餘里ヲ掩有ス故ニ魚族ノ群集スルモノ多ク各所ニ於テ漁業ノ狀態ハ異ナレリト雖モ外洋ニ面セル宇和嶋海上ハ鰺、鯉、鰯、鯛、鮪、鯖ノ類多ク紀淡海峽ニ面スル方面ハ鯛、鰺、鯖、鰯、鰱、鰻、鰻、鰻其他貝類ニ豐富ナリ四防嶋木浦友浦間ノ一部ハ鯛ノ產卵地トシテ有名ナル一漁區ナリト稱セラル

近時政府ハ水産保護獎勵ニ向ツテ大ニ盡ス處アリ從ツテ漁家モ自覺シ各郡組合ヲ設ケ統轄ニ便シ漁法ノ改良及保護方法ハ十分ニ講セラルルハ頗ル満足ヲ表スヘキコトナリトス

一ヶ年ノ漁獲高ハ貳百萬圓ニシテ其他水産ノ製造品八拾萬圓食鹽六拾萬圓乃至八拾萬圓餘ニシテ總產額ハ參百七拾萬圓ニ達シ同縣重要物産ノ地位ヲ占ムルモノナリトス

遠海出漁者ノ數モ頗ル發展シ來リ支那朝鮮ニ出漁スルモノ二千人ノ漁夫三百艘ヲ操縦シテ參拾五萬圓ノ收穫ヲ得之レニ對シテ六千圓ノ補助ヲ受ク朝鮮ノ沿岸ニ地所ヲ撰ンテ半農半漁ニ勤メ盛況ヲ呈シ頗ル著大ナル功果ヲ收メツ、アリ

愛媛ノ工業

産業政策上頗ル工業ノ發達ヲ期スルハ當然ナルモノナリト雖モ同縣ノ工業ハ生産額ノ二割五分以上ヲ占ム藩政時代ノ保護政策ニ依テ成功シタルモノハ織物、製紙、製鹽、陶磁器ニシテ次イテ瓦、石炭、漆器、綿糸、酒、醬油ヲ合算スル時ハ一ヶ年貳千萬圓内外ノ生産額アリテ工業ノ盛況モ之レヲ以テ知ルニ難カラス

愛媛ノ教育

第一、師範教育ハ明治九年ニ創設シ四十三年六月女師範ヲ開始シ 第二、中學教育ハ明治二十二年迄ハ一私立中學ニ過キサリシモ二十五年縣立トナシ又二十九年宇和嶋ニ三十一年大州ニ三十二年西條ニ三十四年今治ニ縣立中學校ヲ設立セリ實業教育トシテハ松山ニ明治三十三年農業學校ヲ創立シ又三十四年ニ同市及八幡町ニ商業學校ヲ越智郡弓削ニ商船學校ヲ設置ス町立トシテ三十五年ニ北宇加郡ニ商業學校ノ創立アリ其他八幡濱商業學校縣立高等女學校等アリテ一般ニ教育上向上ノ形勢ヲ呈シツ、アリ小學校ニ於ケル教育ニ就テハ小學校數五百九十三學級數三千五百教員數男二千三百十八女九百十四人アリ就學歩合九八、五九出席歩合、尋常科八八、五三高等科

九五、三九ニシテ教員ノ平均給額ハ拾五圓拾九圓ナリト云フ

青年團ハ會數八百二會員四萬七千八百七十二ヲ算シ專ラ風紀ノ改善其他ニ銳意盡力シツ、アルハ全ク當局ノ指導其宜シキヲ得タルモノト信セスハアラス

香川縣ノ水産

水産ノ最モ著シキモノヲ舉クレハ鹽田ヲ以テ最トス其產額ハ一ケ年二億萬斤價格貳百拾萬圓ニ上リ漁獲物ハ八拾萬圓ヲ算ス外ニ遠洋漁業ニ於ケル漁獲高參拾萬圓ニ達スト云フ水産製造物ハ拾六萬圓ニシテ合セテ水産物總價額參百參拾萬圓ヲ計上ス同縣ハ水産業ニ對シ一般ニ鼓舞獎勵ヲ加ヘ殊ニ朝鮮漁業團ニ向ツテ獎勵ヲ加ヘツ、アリ

香川縣ノ農業

同縣ニ於テハ之レカ完備ヲ期スヘク目下着手シツ、アル事業頗ル多ク共同苗代、施肥、撰種、播種量、苗育生、植付本數、除草、灌漑及病虫害豫防等農事ノ改良普及ヲ專ラニシ香川神力、雄町等水稻原種約四十點ヲ無償配布シ品種ノ統一ヲ圖リツ、アリ又耕地整理ニ依リ九千二十六石ノ増收ヲ見或ハ溜池廢止等ニ依テ三萬七千石ヲ生産セシムル見込ナリト云フ而シテ郡市町村ハ各々農會ヲ有シ米作改良ニ關シ各種ノ品評會ヲ開催シ之レカ獎勵ニ汲々タリ

香川縣ノ麥作

縣農事試驗場ノ成績ニ因リ栽培法及病害豫防等ニ就テ大ニ改善ヲ圖リ其統一ヲ期ス尙ホ耕地整理ニ依テ一萬八千石ヲ增收セント爲シツ、アリ

香川縣ノ麥稈眞田ノ狀態

麥稈眞田ノ原料タル麥稈ハ自然ノ光澤アルハ地勢乾燥シ易キカ故ノミ然レトモ最モ眞田ノ原料トシテ適應シ農家ノ副業トシテ大ニ好況ヲ呈シ同業組合ハ到ル處ニ設ケラレ縣當局ハ五千餘圓

ノ補助ヲ交付シ獎勵ニ努ム現今ニ於ケル製造戸數三萬三千餘產額百萬圓ヲ下ラサル盛況ヲ呈スト謂フ

兩縣生産額比較

縣名	農產	工產	水產	林產	鑛產	計
愛媛	二四、五〇七、四五四	三、一九六、〇六八	三、一六〇、九〇〇	二、九三七、四六八	三、七三三、一〇〇	五七、二七五、〇七〇
香川	一五、七七七、四八九	一、六六六、一八二	三、三〇一、一九七	二九九、〇一〇	—	三、〇四三、六八八

結論

兩縣ニ亘リテ觀察スル大要ハ如上ノ如クナリト雖モ日數頗ル短キカ故ニ十分其内容ヲ審查スルヲ得サルハ深ク遺憾トスル處ナリ然レトモ兩縣ニ於テ見ルニ各々長短アリ又我三重縣ト比較シテ俄ニ優劣ヲ論スル能ハス兩縣ハ實ニ天惠ノ農產物ニシテ各々水産ニ於テモ其地利ヲ得タルモノト云フヲ得ヘク教育ノ伸張ハ同シト雖モ之レ又教育當局ノ地方ニ依テ同一視スヘキモノニアラサルヘシト信ス
要スルニ兩縣ノ重要ナル生産物ニ對シ其督勵方法ニ於テハ或ハ則ルヘキモノアリ我縣ニ於テモ却テ優秀ナルモノアレトモ風土氣候ノ適否ハ素ヨリ彼レハ天與ノ幸福ヲ得タルモノ我縣ニ於テモ範トスル處尠カラサルヲ信ス

大正三年一月二十三日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三重縣廳

三重縣津市北町拾二番屋敷
印刷兼販賣所 遵法社 松田武兵衛